

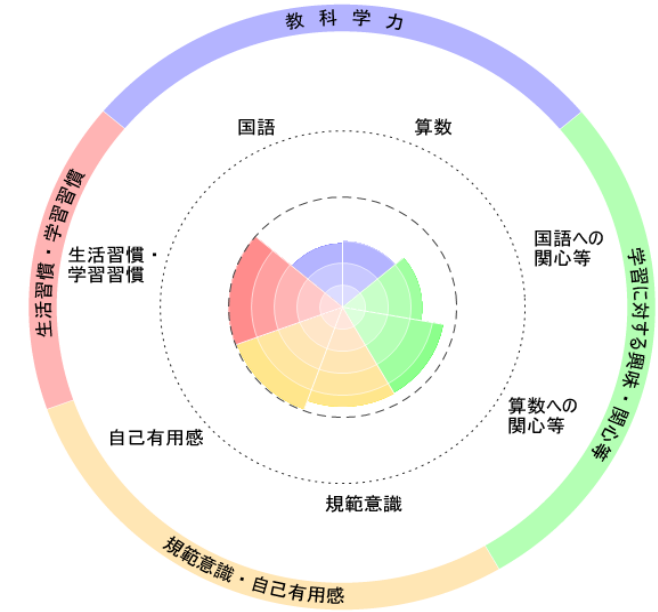
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○授業の中で自分の思いや考えを伝え合う活動を積極的に取り入れたことにより、話すこと・聞くことに関する問題は、他の領域と比べると正答率が高い。 ●文章を読んで、どのような目的で資料(図表やグラフ)を用いているかを捉える力に課題がある。 ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読む力に課題がある。	・学校図書館と連携し、国語だけでなく他教科でも積極的に資料を活用した授業を展開したり、学年に応じて情報を活用する力を育成したりしていく。 ・語彙力の向上を目指して、国語辞典を日常的に活用する習慣が身につくように指導を続ける。また、文章を読むときには、目的(視点)をもちながら読むように指導する。
算数	○図形に関する問題は、他の領域と比べると正答率が高い。 ○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題は、正答率が高い。 ●除法(わり算)を使って求める問題や単位量あたりの大きさを求める問題の正答率が低い。 ●計算の仕方や求め方を記述で答える問題の正答率が低く、無回答率も高い。	・全学年で、毎日ミニテストを実施することによって、基礎基本の習熟を図る。つまずきが見られた問題については、くり返し指導して定着を図る。 ・児童が問題の解き方の見通しをもち、図や式、言葉を結び付けて自力で解決できるように学習過程を工夫する。個人思考や学習のまとめの場面では、自分の考えを表現したり、説明したりする活動を積極的に取り入れる。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
	○地域の行事に参加している子の割合が高く、ふるさと教育でも、地域の方とふれ合う活動を積極的に行っている。 ○自主学習の方法や内容を具体的に指導した成果もあり、家庭学習の習慣が定着してきた。 ●家の人と学校の出来事について話す子の割合が低い。 ●平日平均10分以上読書をしている子の割合が高く、図書館へ行く回数も多いが、読書が好きな子の割合は低い。	・メディアとの接触時間が長い傾向が見られるため、家庭との連携を図りながら、メディア学習を実施したり、「がんばるゾーカード」を活用したメディアコントロールの取組を行ったりする。 ・朝読書、読み聞かせ、ブックトーク、並行読書など、読書時間の充実を図るとともに、学校図書館と連携を図りながら、読書意欲を高める活動を工夫したり、教師が本に興味をもつような情報を発信したりする。

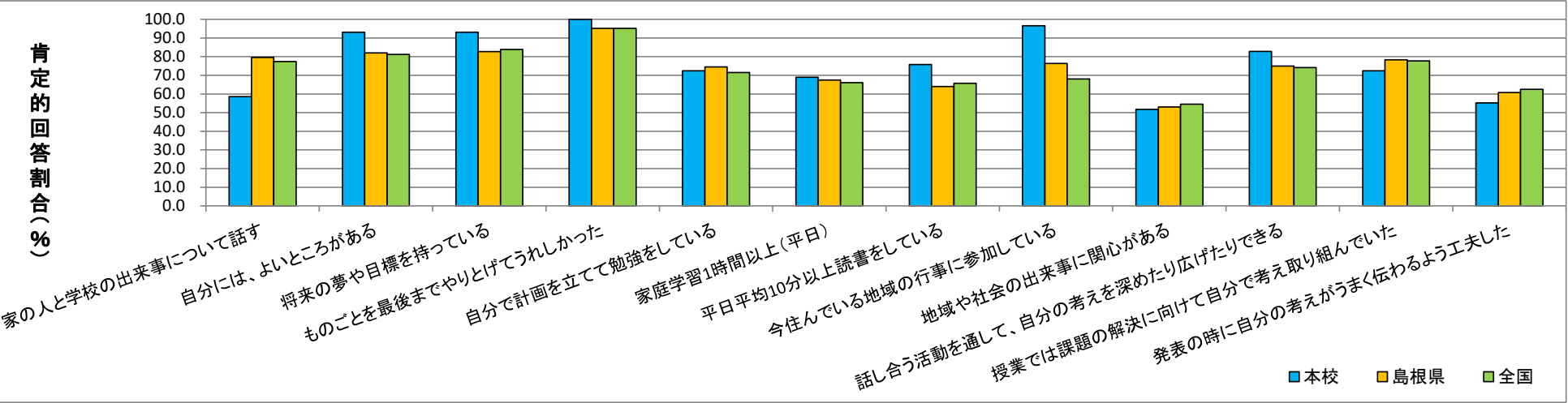
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学習意欲を高め、家庭学習の定着を図るために、3年生以上の学年で、「自学メニュー」を活用した自主学習の指導を継続的に行う。 ・算数については、必要に応じて習熟度別指導等を行うことによって、発展的な学習を取り入れたり、個に応じた支援をしたりしていく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	44	63	62	63.8
算数	51	66	65	66.6

受検者数 29 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。